

脳卒中に立ち向かうための愛知県の取り組み

脳卒中は(1)我が国の死亡率の第3位であり、死亡総数の1割強を占めています。(2)入院受療率も高く入院原因の第2位を占めるなど、まさしく国民病と言えます。(3)脳卒中の急性期を生き延びても患者さまとご家族は運動麻痺や失語症などの後遺症に苦しみ生活の質は低下し、社会的ハンディキャップを負うこととなります。

脳梗塞の再発を防ぐために、抗血栓薬（血栓を予防する薬）を内服する必要があります。これには大きく分けて2種類あり、(1)心臓病（不整脈など）が原因の場合には凝固を抑える薬（抗凝固薬）が適用となります。(2)それ以外では血小板の働きを抑えるくすり（血小板薬）が適用となります。

- (1) 抗凝固薬：ワーファリン、プラザキサ、エリキュース、イグザレルト、リクシアナ
- (2) 抗血小板薬：プレタール、プラビックス、バイアスピリン等

抗血栓薬内服中に脳卒中や外因性出血で救急搬送される場合があります。救急搬送時は「お薬手帳」を持っているとは限らず、抗血栓薬の種類が確認できないこともあります。近年、特定の薬剤に対する中和薬が使用可能となり、抗血栓薬確認の重要性がさらに高まっていることから、すべての抗血栓薬を網羅できる抗血栓薬カードを作成しました。名古屋市薬剤師会の協力を得て、名古屋市、尾張中部の調剤薬局で配布していただいています。

救急搬送されたときに、このカードを確認できれば迅速かつ最善の治療を受けることが可能となります。

下記の抗血栓薬を服用しています		
お名前	_____	年 月 日
<input type="checkbox"/> ワルファリン	<input type="checkbox"/> プラザキサ®	
<input type="checkbox"/> イグザレルト®	<input type="checkbox"/> エリキュース®	<input type="checkbox"/> リクシアナ®
<input type="checkbox"/> 抗血小板薬(アスピリン、クロピドグレル、シロスタゾール、 エフィエント®, _____)		
上記薬剤は出血を助長する可能性があります。 それぞれの薬剤に適した処置をお願いいたします。		
受診病院		
主治医		



抗血栓薬カード（表面）

携帯しやすい名刺サイズの抗血栓薬カード

「抗血栓薬カードの作成」と「血栓回収療法の普及」

愛知県では愛知医科大学、名古屋大学、藤田医科大学、名古屋市立大学、名古屋医療センターそして済衆館病院（日本脳卒中協会愛知県支部）が協力し数ヶ月前より、脳卒中対策として「抗血栓薬カードの作成」「血栓回収療法の普及」を行って来ました。脳梗塞患者さまは抗血栓薬内服中に脳出血や外因性出血で救急搬送される場合があります。救急搬送時には「お薬手帳」を持っているとは限らず、抗血栓薬の種類が確認出来ない事もあります。近年、特定の薬剤に対する中和薬が使用可能となり、すべての抗血栓薬を網羅できる抗血栓薬カードを作成しました。名古屋市薬剤師会の協力を得て、名古屋市、尾張中部の調剤薬局で配布して頂いています。

また愛知県では脳塞栓に対する血栓回収療法の需要が猛烈な勢いで高まっています。そこで県内4大学の脳神経外科、脳神経内科を中心に共同プロジェクトを立ち上げ、まずは実状調査を行いました。その結果、県全体では患者の15%に血栓回収療法が行われ、また県内の都市部と過疎地ではその実施率が大きく異なっていました。

そこでまずテキストを作成し、愛知県の後援を得て、血栓回収療法の基礎から実技までの教育セミナーを開催しました。140名の医師ならびに関係者が参加し、基礎から実技までの系統的な教育による実施医療要請の端緒となりました。今後こうした「愛知モデル」を進めていく予定です。

脳卒中の与える影響はご家族のみならず社会的にも甚大です。さらに、脳卒中は高齢者ほど発症率が高く、今後人口の急速な高齢化に伴って脳卒中患者さまが急増し、脳卒中対策の重要性が増すことは必須であります。

従って予防によって新たな脳卒中発症を減らし、既に発症した患者さまとそのご家族を支援することが、社会的に極めて重要であると考えます。

日本脳卒中協会愛知県支部と共に済衆館病院は脳卒中に関する正しい知識の普及および社会啓発によって、北名古屋市を中心に新たな脳卒中患者さま・ご家族の不安とハンディキャップの軽減・生活の質の改善を図り、その成果を通じて地域住民の皆さまの健康ならびに保険、福祉の向上に寄与して行きたいと思っております。